

JIS Q 45001 (ISO 45001)

労働安全衛生マネジメントシステム

労働安全衛生マネジメントシステムの必要性

労働災害防止の活動では、原因追究の事後的対応や全員参加活動による安全意識高揚運動、また、ヒューマンエラー分析を通して教育をしていく不安全行動の防止活動など、様々な努力をしてきました。しかし、「品質管理」「環境管理」などのリスクマネジメントを含んだシステムが整ってくると、労働安全衛生活動にもそのシステムの導入による安全リスクを低減する活動が必要となってきました。

労働安全衛生マネジメントシステムによる労働安全管理は、リスクアセスメントを基本とする予防管理を行うことで未然に労働に関係する負傷及び疾病を防止します。

労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)を導入、運用している事業場の労働災害発生率は、これらの活動を実施していない事業場に比べて3割以上低い結果が出ています。(厚生労働省の発表)

2018年3月に、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)の初の国際規格としてISO 45001が発行されました。これにより、OHSAS 18001は2021年9月に効力を失います。MSAではISO 45001の認証を促進しています。

期待される効果

- リスク管理・分析により
 - 1.働く人の労働安全環境及び意識を向上させることができます。
 - 2.作業能率が向上します。
 - 3.労働安全衛生について組織内での縦横断的なコミュニケーションに役立ちます。
 - 4.リスクマネジメントを行う手助けとなります。
 - 5.負傷、疾病の予防により補償費の削減、コストの節約ができます。
- ISO 9001、ISO 14001と統合したISO 45001は品質、環境と労働安全衛生の一貫したアプローチに役立ちます。
- OHSMSを導入することで、より柔軟なシステムの枠組みを構築できます。